

事務事業評価シート

H26(標準事業)

① 基本事項	事業コード	03179-1	事業名	施設管理費(待機児童館費)	部名	健康福祉部(子ども総合センター)
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	財務科	会計	室名	子ども家庭室
	基本施策	02:子育て支援	目	款	一般会計	
	施策の方向	03:仕事と子育てが両立できる社会づくり	目	項	民生費	
	戦略プロジェクト		目	目	児童福祉費	

② 目的・概要	対象	保育所への入所を待機している児童
	目的	保育所への入所を待機している児童に対し、一時的な保護としての保育を行うことにより、安心して子育てができる環境を整備し、児童福祉の向上を図る

			24年度	25年度	26年度	
③ 指標	活動	① 補足	計画値 実績値 単位	32,030 千円	32030 千円	32,945 千円
		② 補足	計画値 実績値 単位			
		① 補足	計画値 実績値 単位	18 人	14 人	13 人

年度計画				年度実績				
				平成26年度末時点での待機児童入所数 13人(院内除く)				
④ 事業の計画・実績	事業費	事業費	計画額	予算額	決算額	総人件費 ①	1,480	
		国庫支出金				一般職員人件費 ②	1,480	平均給与額×③
		県支出金		149	202	所要人員 ③	0.20	
		地方債				臨時職員人件費 ④		
		その他		13,589	12,614	受益者負担額 ⑤	1,938	
		一般財源		22,503	23,342	受益者負担率	5.1%	⑤ / ⑥
		再掲	翌年度への繰越額					
			前年度からの繰越額					
			総人件費		①	1,480		
			総コスト		⑥	37,638		

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	市内の保育所への入所を待機している児童を待機児童館(ばんび)で預かることにより、働く保護者が安心して子育てできる環境を整えることができた。	総合判定	A
	【反省点・課題】	待機児童館の利用者については、保護者の就労形態が変化し、0歳・1歳の入所児童が多く見られた。定員を超えることはなかったが、今後の待機児童対策として、対応を検討する必要がある。	順調に進んだ	
	【改善の方向性】	待機児童館の活用については、医療センターの院内保育所として活用すること以外に、平成27年4月からスタートした「子ども・子育て支援制度」による地域型保育事業の導入を検討する。		

事業目的の妥当性: 適切

有効性: 適切

最終評価確認者: 子ども家庭室長 青木 正彦